

会議録

会議の名称	平成 28 年度第 1 回西東京市地域計画策定普及推進委員会
開催日時	平成 28 年 8 月 9 日（火） 午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
開催場所	西東京市役所 保谷庁舎 1 階 会議室
出席者	<p>【委員】熊田委員、伊藤委員、滝沢委員、篠宮委員、小平委員、中野委員、中村委員、渡辺委員、櫻井委員、小野委員</p> <p>（欠席）新井委員</p> <p>【事務局】生活福祉課長、生活福祉課調整係長、生活福祉課調整係主査、生活福祉課調整係主事 2 名</p>
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>（1）委員長・副委員長の選任</p> <p>（2）西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会の運営について</p> <p>（3）第 3 期西東京市地域福祉計画取り組みの状況について（報告）</p> <p>（4）地域福祉コーディネーター事業 平成 27 年度活動報告</p> <p>（5）福祉圏域について</p> <p>（6）その他</p>
会議資料の名称	<p>資料 1 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会委員名簿</p> <p>資料 2 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会設置要綱</p> <p>資料 3 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会傍聴要領</p> <p>資料 4-1 西東京市市民参加条例</p> <p>資料 4-2 西東京市市民参加条例施行規則</p> <p>資料 5-1 第 3 期西東京市地域福祉計画の体系図</p> <p>資料 5-2 第 3 期西東京市地域福祉計画の取り組みの状況</p> <p>資料 5-3 第 3 期西東京市地域福祉計画進捗状況調査票（平成 27 年度）</p> <p>資料 6 地域福祉コーディネーター事業（平成 27 年度活動実績）</p> <p>資料 7 福祉圏域の設定について</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
1 委嘱式	—————委嘱状の交付—————
2 会議	—————欠席委員の確認（欠席：新井委員）—————
	—————各委員自己紹介—————

【議題1 委員長・副委員長の選任】

—————（委員長：熊田委員、副委員長：伊藤委員）—————

○委員長（挨拶）

私は武蔵野大学の熊田である。地域福祉計画については第3期の策定にも関わっている。非常に他市と比べてもユニークな取り組みを進めている。特に後ほど報告がある「地域福祉コーディネーター」の取り組みやほっとネットの取り組みは他市を抜き出して優れた取り組みだと思う。これらを進行管理していくことがこの委員会の役割だと思うので、よろしくお願ひしたい。

○副委員長（挨拶）

法政大学の伊藤である。地域福祉計画については第2期から関わっている。この計画は地域福祉コーディネーターやほっとネット等で先駆的な活動が展開されている。ソーシャルワークや対人援助の観点から、微力ながら本計画の力になればと思うので、よろしくお願ひしたい。

【議題2 西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会の運営について】

—————資料2により、事務局から説明—————

—————会議資料の確認—————

—————委員会設置要綱の確認—————

—————会議の公開の確認（条例に基づき公開とする）—————

—————傍聴人の人数の確認（条例に基づき5名程度とする）—————

—————会議録についての確認（発言者の発言内容ごとの要点記録）
（発言者は氏名を入れず「委員」と表記）—————

【議題3 第3期西東京市地域福祉計画取り組みの状況】

—————資料2により、事務局から説明—————

- 委員長 只今、事務局より説明があったが、ご意見ご質問いただきたい。では質問だが、質問項目の貢献できたかどうか、についてはどのように判断するのか。
- 事務局 貢献できたという項目は基本的には各課が持っている事業に対して、地域福祉計画で示した基本目標の中にどの程度貢献していると思われるか、という担当

所管課において評価されたものである。

- 委員 担当課が実施できたという数字と貢献度がほぼ同じである意味が分かった。実施できたから貢献できたのだらうという流れになる。基本目的2「みんながつながりあう地域づくり」の数値が高いのは、キーパーソンなどリーダーがいることで、事業が明確に進められ、効果が出ているのだと思われる。災害や基本目標3「社会的孤立を防ぎ必要な支援へつなぐしくみづくり」、基本目標4「サービス内容の充実・向上のためのしくみづくり」のように数値的にも表しにくいものはつかみどころがなく数値が低い。しかし市民にとっては基本目標3・4のような内容が必要。キーパーソンなどをポイントに置いて、計画を効率的に進め、次の計画に組み込められると良い。
- 委員長 一般的に実施をしたら貢献できるという構造になっているが、実施したのにも関わらず貢献できていないと答えているものもあるはず。一部実施し、貢献できている、などというズレを読んでいくところが重要である。それらがどのような事業なのか、複数部署の関わりによる推進の難しさも考えられる。目標が高すぎて到達が難しいものなどの要因があるはず。データを経年的に積み重ねていくことで次回の計画の資料に繋げていきたい。
- 委員 ほっとネットのように地域住民と一緒に活動していくものが充実している。地域外の機関と連動している事業も専門機関ということもあり、充実している。防災や環境など市が独自に行っているものにも地域の専門職が介入することで早期に充実していくのではないか。
- 委員長 成果が見えにくい取り組みもある。それらにも注意しながら、今後検討していくことも重要である。
- 委員 地域福祉計画だけでなく、防災や高齢者の計画もある。これらの充実度も図りつつ推進していきたい。
- 委員長 他の計画との関係性もあるため、関係機関の資料も必要に応じて提供してもらいつつ、今後議論ができるようにしたい。
- 委員 避難行動に関して、それぞれ所管課が異なるためだと思われるが、それぞれの事業が連携したような連続的な支援が必要である。
- 委員長 連携という点について事務局の考えはどうか
- 事務局 地域福祉計画4ページを参考に、地域づくりに対して様々な計画が立てられている。計画全体を事業として取り上げているため、仕組みとして地域福祉計画が全体を統一するものになっている。その中で高齢や障害など専門的分野についてそれぞれ別で計画が立っている。

○委員 資料5-2について、基本目標5の防災対策の充実があり、防災訓練を行っているが、西東京市は町会や自治会の設置率が少ないと聞いている。防災訓練の未実施区域を把握しているが、出前講座形式での講演を行い、人が多く集まる場所に出向き活動している。基本目標3の「社会的孤立を防ぎ必要な支援へつなぐしくみづくり」について、救急隊が様々な場所に立ち入っていくが、支援が必要と思われる市民にサービスを繋げていきたいが拒否をされる現実があり、難しさを感じている。

○委員 基本目標2「みんながつながりあう地域づくり」とあるが、西東京市は大きく4つの区域に分けられ、各地域に学校や病院など様々な施設がある。先日地域の中でどのようなことが出来るかという地区推進会議を行った。これらのネットワークの中に地域福祉計画がどのように関わっていくべきなのか、考えていきたい。

○委員長 委員からの情報提供であったが、事務局はどのように把握しているか

○事務局 市全体の計画に基づき、後にできた他のコミュニティについては調整が必要である。

【議題4 地域福祉コーディネーター事業 平成27年度活動報告】

———資料6により、事務局から説明———

○委員長 質問や意見等はあるか。

○委員 4人の地域福祉コーディネーターから、スーパーバイザーによる事例検討会が好評であった。コーディネーター自身の悩みや介入方法の相談を行うことができた。今後回数を増やし充実させていきたい。

○委員 相談内容をみると、市民同士の問題が多い。どこまで介入していいものなのか、分からないことがある。報告に、環境問題の数が多いが、市民同士の問題が絡むことがある。

○事務局 地域で互いに問題発見し、解決方法を模索することで連携や繋がりが出来ることも事業の目的の一つである。コーディネーターが把握している様々な解決手段や関係機関等の社会資源を活用しながら取り組んでいきたい。

○委員長 コーディネーターは個人の問題として捉えるのではなく、地域の問題として捉えていくための一つの足がかりである。

○委員 各世代に渡る困難さを感じるケースが多い。ほっとネットなどに問題をあげることで、住民が自分たちの地域の問題と認識する機会を持っている。解決して

終わらずに、住民を地域に繋げるところまで取り組んでいる点が良い。

- 委員長 相談件数の多さから、住民から必要とされていることが伺える。コーディネーターへのサポートも必要である。

【議題5 福祉圏域について】

————資料7により、事務局より説明————

- 委員 地域福祉計画が上位計画であるから、高齢福祉計画は地域福祉計画に合わせるべきなのではないか
- 事務局 地域福祉計画が策定された頃には圏域という概念が無かった。ふれあいのまちづくりをもとに作ったため、小学校区域になっている。その後他の計画が策定され、町名ごとの圏域となったため圏域の違いが出来た。小学校の統廃合で区域が変更になることによる分かりづらさや他の計画との整合性を図り、市民に分かりやすいものにしたい。先日庁内での委員会でも同様の方向で了承を得た。
- 委員 高齢計画の圏域の考え方は生活圏域と異なるが地域包括支援センターの業務が進んできているため、変更となるとかえって混乱を招く。現在の圏域に対して充実化を図ることで生活圏域としての意識作りをしていきたい。町名ごとの圏域のほうが市民にとって分かりやすいのではないか。
- 委員 市民にとって分かりやすい町名ごとの圏域に合わせるのがよいのではないか。
- 委員 日常生活上、どちらの区域になっても感覚は変わらない。今後市が地域協力ネットワークを基盤にして高齢だけでなく、子育て、防犯等に力を入れていくのであれば、町名ごとが望ましい。
- 委員 ささえあい訪問協力員は小学校区域となっている。見直しということであれば他の事業の圏域も一緒に見直したい。
- 事務局 事務局としては了承を得たとして保健福祉審議会へ報告させていただく。
- 委員長 整合性を保つことは重要。上位の委員会でも検討いただく。他に意見などあれば事務局へ連絡するように。

【その他】

- 委員長 その他事務局から、何かあるか。
- 事務局 次回の開催については、別途連絡する。
- 委員長 それでは委員会を閉会とする。